

第8回公開シンポジウム

「人間、科学技術、自然をつなぐ倫理 - AI時代をよりよく生きるために -」

AIをはじめとする科学技術の急速な進展は、私たちの生活や社会を豊かにする一方、人間の知性、理性、感性を変容させ、自然との関係をも大きく変えつつあります。こうした時代において、工学倫理は、個々の科学技術の安全性や適切な利活用にとどまらず、人間、科学技術、自然の関係を捉え直し、よりよい未来社会に向けて再考する必要があります。本シンポジウムでは、先端科学技術、哲学、情報科学、自然科学、音楽・芸術など多様な視点から、AI時代における人間、科学技術そして自然の関係を捉え直すとともに、人類の安寧とよりよき生存に資する未来志向の工学倫理を深耕します。さらに、倫理の基盤となる感性や共感を含め、これからの科学技術者に求められる資質と、それらを育む工学教育のあり方を考えます。

開催日時：2026年 10月20日（火）、15時～18時00分

会場：北海道大学応用科学研究棟2階レクチャーホール（札幌市北区北13条西8丁目）
オンライン同時開催（申込方法は、裏面参照）

参加登録費：無料

【プログラム】（敬称略）

第一部

15:00-15:05 はじめに
大橋 俊朗（PJ幹事）

15:05-15:10 開会挨拶
寶金 清博（北海道大学総長）

15:10-15:25 PJの経緯と趣旨
小泉 英明（PJリーダー）

15:25-16:15 特別講演
**「顔認証技術の社会実装とデジタルエシックス
—信頼される技術をどう築くか」**
今岡 仁（日本電気株式会社 NECフェロー）



寶金 清博



小泉 英明



今岡 仁

AIや生体認証技術が急速に社会に浸透する中、技術と人間との関係はどう変わっていくのか。便利さや効率を高める一方で、判断の透明性、データ活用の妥当性、AIのバイアス、ユーザーや社会との信頼関係など、これまで以上に複雑な問いも生み出している。本講演では、顔認証技術の研究開発から社会実装の経験を紹介するほか、AIが人間の判断領域に近づくにつれて、公平性・透明性・説明責任といった「デジタルエシックス」の視点が不可欠になっていることに触れ、技術者と社会がどのように信頼関係を築いていくべきか、共に考える。

※プログラムの内容は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

【プログラム】（敬称略）

第二部

16:30-17:55 TDトーク、Q&A（フロアとの対話） ※TD: Trans-disciplinary

17:55-18:00 閉会挨拶・今後の予定
長井 寿（PJ副リーダー）

【TDトーク】

Trans-disciplinary（TD：環学的）とは、学術分野や基礎・応用の境界を越えて多様な知を結び付け、共創による新たな価値の創発と社会実装を目指す考え方です。今回は、哲学、情報科学、理学、音楽・芸術の専門家が集い、専門領域を越えて、グローバルな時空を俯瞰しながら、科学技術と人間、社会、自然、そしてこれからの倫理について議論します。冒頭には近藤教授による無伴奏バイオリン演奏「曲目（tbc）」を行い、その後、各登壇者の自己紹介を起点にTDトークを展開します。



近藤 薫

東京大学先端科学技術研究センター、教授/
東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター



田口 茂

北海道大学大学院
文学研究院・人間知×
脳×AI研究教育センター
(CHAIN)、教授



Rafal Rzepka

北海道大学大学院
情報科学研究院、
准教授



大津 珠子

北海道大学大学院
理学研究院、教授

総司会 大橋 俊朗（PJ幹事）

【イベント詳細・参加申込（無料）】

下記イベントURLより事前登録をお願いいたします。

[EJ政策提言委員会プロジェクト第8回公開シンポジウム「人間、科学技術、自然をつなぐ倫理」- 日本工学アカデミー](#)

【会場アクセス】

北海道大学応用科学研究棟2階レクチャーホール
（札幌市北区北13条西8丁目）

【お問い合わせ】

日本工学アカデミー事務局
E-mail desk@ej.or.jp
Tel: 03-6811-0586

主 催：公益社団法人日本工学アカデミー

共 催：国立大学法人北海道大学、公益財団法人
生存科学研究所、国立大学法人東京大学
先端科学技術研究センター、一般社団法人
社会的価値共創フォーラム、公益社団法人
日本工学アカデミー北海道支部、産学官
円融の対話

助 成：一般財団法人新技術振興渡辺記念会

